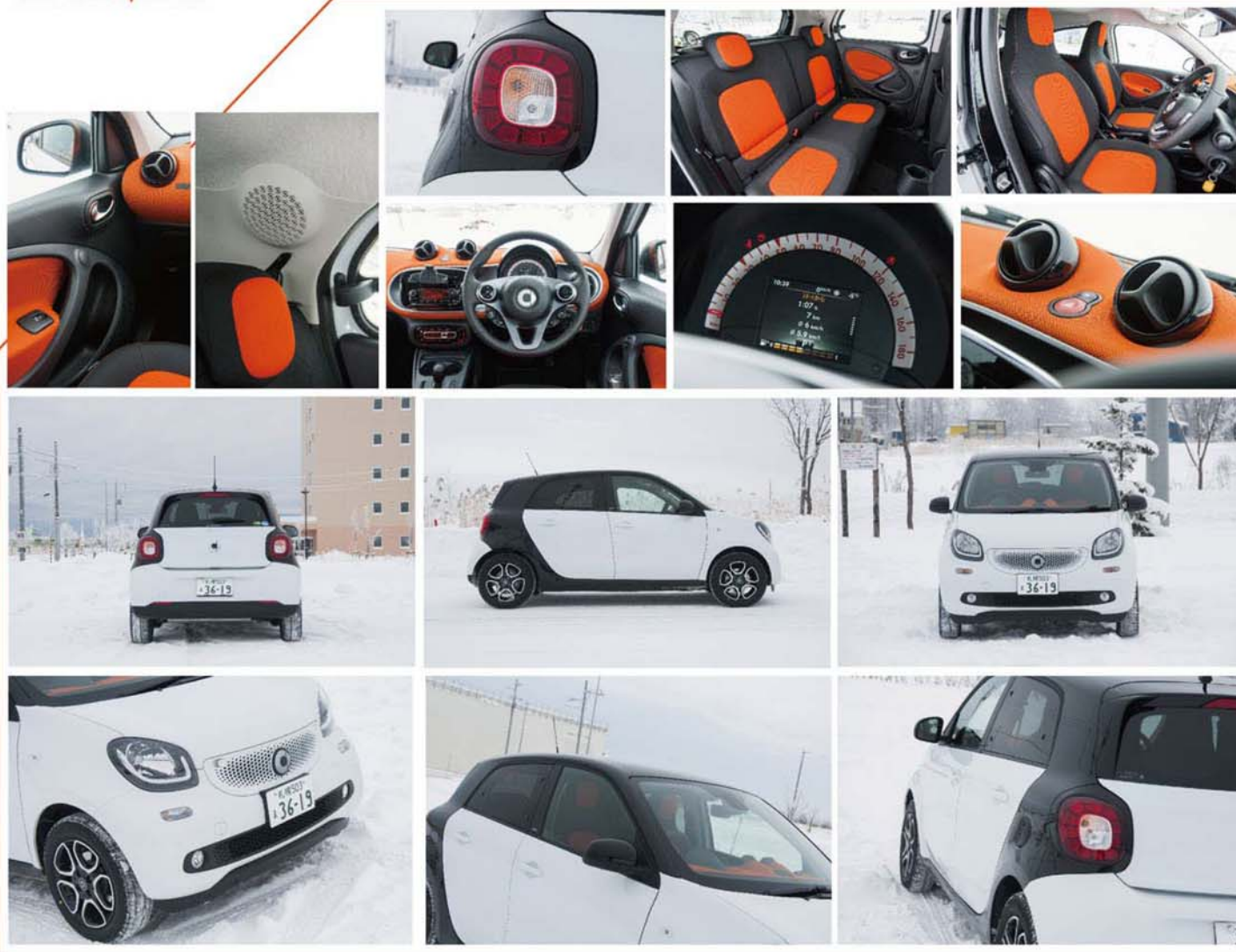




今回のスマートの4人乗りタイプは、8年ぶりに登場した。これを機に主力を4人乗りのfourに限定車にした。後席がプラスになったことで、一挙にロングドライブも快適になった。エンジンは1.1Lの直列3気筒の自然吸気で71馬力。スペック的には、飛び抜けた数字ではないが、非常に扱いやすいエンジン特性だ。

新型スマートの特徴は、駆動方式にも表れる。RRという後部にエンジンを積んだ後輪の駆動方式だ。こういうことかという、前輪の切れ角が幅広くなり、最小回転半径が4.1mしかない。これは、驚異的な数字で通常の片側1車線の道路で、路肩が広ければ切り返しなしでUターンできるレベル。もっとすごいのが、軽自動車を上回っていることだ。軽自動車の全長が1

■ちょい乗りから ロングドライブまで

と、メンバーの名をさげふファンがいたのかどうかは未確認です。

もう一つのキーワードが、スイスの時計ブランド「スウォッチ」とコラボして、1998年に初代の2人乗りのスマートが誕生したこと。40代以上のクルマに詳しい人なら、覚えているのでは。今回の新型スマートは、フランス車のルノー・トゥインゴと兄弟車で、スロベニアにあるルノーの工場とともに生産されている。そんな縁もあり、新型スマートのエンブレムはどこかルノーと似ているような感じがした。メルセデスを象徴するエンブレムのスリーポイントドスターを配していない。かつては三菱・コルトとも兄弟車でもあり、スマートは、メルセデスのダイバーシティー（多様性）ともいえる。

■使い勝手に優れた 実用性も完備

スマートの特性を考えると、日常ユースにいかにかに溶け込むか、という観点も見取れる。取り回しの良さに加えて、使いやすさもある。例えばドアの開閉。後席のドアは、ほぼ直角の85度まで開く。通常は70度ぐらいなので、その利便性が極めて高まった。後席を倒して大きな荷物を横から詰めるし、チャイルドシートが必要な小さな子どもを、ママが楽な姿勢で乗せてあげることもできる。「いいんじゃない、これ！」と思わず口走ってしまった。トランクは通常で185Lと小ぶりなもの、後席を倒せば730Lと十分な収納力を確保できる。助手席を倒せば、トランクルームからスルーでき、スキーやスノーボードなどの長尺物もラクラクと積み込める。

快適な機能としてレインセンサー、オートライト、クルーズコントロール、オートエアコンを標準装備。スマートフォンと連動した「スマート・クロス・コネク」は、かなり使える機能だ。

可愛いコンパクト・メルセデス



Mercedes-Benz smart forfour

■テキスト=有岡 志信 (SAフォトワークス) ■Photo=川村 勲 (川村写真事務所)
■取材協力=メルセデス・ベンツ札幌中央 Tel(011)210-0777

主要諸元：スマート フォーフォー パッシュョン

- 全長×全幅×全高/3,495×1,665×1,544mm
- ホイールベース/2,494mm
- トレッド/前:1,467mm 後:1,429mm
- 車両重量/1,005kg
- 最小回転半径/4.1m
- エンジン/999cc直3DOHC
- 最高出力/71ps/6000rpm
- 最大トルク/9.3kgm/2850rpm
- ミッション/6AT
- ブレーキ/前:ディスク 後:ドラム
- タイヤサイズ/165/65R15・185/60R15
- 駆動方式/RR
- 乗車定員/4名
- 車両本体価格(札幌地区)/2,090,000円(消費税込)

プロフィール

■軽自動車以上、 普通車未満の妙味

恋愛での悩みどころは「友達以上、恋人未満」の関係では、これって、もどかしい、焦っちゃう。あと一歩、あと一センチだけ踏み込める勇気が欲しい。ところが、クルマではちょっと別な展開になる。メルセデス・ベンツが4人乗りとなる新型「スマートフォーフォー」をリリースした。スマートといえば、全長3mを切る2人乗りのクルマだったが、これが、少し大きくなって4人乗りになったのだ。つまり、ユーザーにとっては「軽自動車以上、一般車未満」というもの。愛車との関係が、これなら♥ですね。

■カジュアル＆ ダイバーシティー

メルセデスのスマートといっても、クルマ離れが進む若年層にはピンとこないかもしれない。2つのキーワードでスマートを説明しますよ。まずは、あの男性アイドルグループ・嵐の相葉雅紀（以下、相葉くん）を起用したテレビCM。切れ切れ、ノリノリでスマートを誘導するようなしぐさのダンスを披露。実に楽しそうに踊っています。メルセデスといえば、高級で重厚なクルマというのが、世間一般のイメージ。ところが、近年ははじけちゃっているんですね。相葉くんみたいに。新型AクラスをリリースしたときもPerfumeをCMで起用。Aクラスを見かけると、「かしゅかーあーちゃん！のっちー！」

一般的に3395mmで、スマートフォーフォーが3495mmと100mm長い。それなのに、軽自動車の最小回転半径の平均値である4.5mを堂々と下回っている。

運転に不慣れたドライバーにとって、なにが扱いやすいクルマかというと、決してコンパクトなだけではない。狭い駐車場で地獄のような切り返しで、冷や汗をかいた経験は二度とたくない。ハンドルがものすごく切れてスルスルとクルマが回転していくのは、まさに快感。コンパクトボディと相まって、これこそが扱いやすいクルマの必要条件だと、考えさせられた。



ディーラーメッセージ

メルセデス・ベンツ札幌中央

営業部

佐々木 隆宏さん

小さくて取り回しが非常に良いクルマです。カラフルなカラーリングもあって個性を重視される方、輸入車の購入を初めて検討される方にも最適だと思います。クセのないクルマですので、乗っていてストレスを感じません。オプションになりますが、メルセデスでは唯一、最大8年目まで保証がつくのも安心を買うという点でおすすめです。私もスタッフで堺川、白石などの坂道で試しましたが、雪道の登坂能力で過不足を感じませんでした。



専用のアプリをダウンロードして、ナビゲーション機能として使用できる。燃費情報などもアナウンスしてくれて、運行経路や駐車場所の確認もできてしまう優れものだ。もちろん、音楽情報ともリンクでき、多様な使い方でカーライフを満喫できる。

■フレンチデイスト?でもメルセデス

スタイリングは、とっても可愛らしい。メルセデス・ベンツでは似合わない表現なのだが、切れ長のヘッドライトは、ネコ科の小動物を思わせる。極めて短い前後のオーバーハングが、まとまり感のあるスタイリングを生み出している。ポップなライトカジュアル感ともいえるが、女性はもちろんだが、個性を重視する男性にもピタリとハマる。重厚なジャケットを着こんで乗るメルセデスよりも、パワーを羽織ってステアリングを握るイメージに近い。後部は肉厚感がなく、真四角にちかいらランプに愛きようさを感じる。

そんなスマートをさらに彩るのが、カラーリングだ。全8色を用意しており、最近のトレンドにもなっているツートン使用も展開している。これは、かなり目立ち、おしゃれ度もひときわアップ。特にメタリックペイントは、エントリーグレードにありがちなチープさはなく、やや抑え気味の光沢感など、カジュアルな中にもメルセデスの気品と落ち着きを与えている。

インテリアも華やいでいる。エントリーグレードの「パッション」は、シートなどにオレンジとブラックをあしらったポップ感を演出。その一方、メッシュファブリック地のインパネ周辺、ドアパネルが上質な空間づくりにひと役買って

いる。決して軽すぎず、重すぎずというバランス感覚がある。上級グレードの「プライム」は、品の良いステッチ入りの本革シート、開放感を与えてくれるパノラミックルーフで高級感をもたらす。

インプレッション

■北海道でもかなり走ってくれる

スマートフォークのステアリングを握ったのは、雪深い1月中旬。まとまった降雪、アイスバーンも顔をのぞかせている典型的な冬道だった。ポルシェに代表される駆動方式のRR車で4WDではない。北海道は4WD車の神話、そう簡単に崩れないが、実はRRは雪道に弱い。エンジンが後部で後輪が回っているため、理屈はFF車と同じだ。凍結路面では、スタート時に空転こそするものの、後続車のレガシイが車線変更するほど、もたつきはなかった。

ハンドリングも良く、パワー不足も感じない。変速ギアを予測して、あらかじめ準備しているデュアルクラッチ式を採用しており、シフトアップ・ダウンの際に駆動力が途切れない。だから、スムーズ。RR駆動のため、エンジンノイズは若干、高めに感じるが、当然のように高レベルな防音対策を施しており、耳障りではない。雪で道幅が狭くなった道も、ストレスなくウターンできる。

軽自動車には乗りたくない。でも、日本車はたくさん走っているのが個性が。そんな方にスマートは、確実に選択肢に入るであろう一台になるはずだ。